

『肝っ玉おっ母とその子供たち』 ——あとから生まれてくる人たちに』

作 ベルトルト・ブレヒト Bertolt Brecht 翻訳 岩淵達治
上演台本・演出 浅野佳成
音楽 八幡茂
舞台美術・衣裳 アンジェイ・ピョントコフスキ Andrzej Piątkowski

出演 渋谷愛
白根有子／蒲原智城／石岡和総
高階ひかり／栗山友彦／中村滋／白石圭司／西垣耕造／保角淳子
緒方一則／佐藤勇太／賀來俊一郎／清水菜穂子／水嶋琢磨／柳瀬太一

照明 坂野貢也 音響 上田舞子 舞台監督 佐田剛久

起き上がれよ、みな起きろ いまこそ目覚めの時だ。

風の代表作、ブレヒト作品を新構成・新キャストで上演！

本作は1999年、レパートリーシアターKAZEのこけら落とし公演で初演しました。
以来、繰り返しの上演を通し観客とともに質の高い演劇をつくっていく〈レパートリーシステム〉を確立した、劇団の代表作です。

2006年からは全国巡回公演をスタートし、ブレヒトの詩をもとにした〈あとから生まれてくる人たちに〉をサブタイトルとして、10代の若い観客との公演も重ねてきました。
二つの大戦を経験し、20世紀の“過ち”が人間の手で発見され、変革されることを願ったブレヒトの時代精神が最も色濃く反映された『肝っ玉おっ母とその子供たち』。劇場という場に希求し続けた作家の精神を受け止め、劇団が総力を上げて、いま、新たに取り組む上演にご期待ください!!

【あらすじ】

17世紀、ヨーロッパ全土を巻き込んだ宗教戦争（三十年戦争）の最中。
肝っ玉おっ母は幌車に品物を積み、軍隊を相手に商売をしながら生計を立てている。
彼女の魅力に惹かれ集まってくる、娼婦、コック、牧師など様々な人たち。
彼らもまた泣き、怒り、笑い、たくましく生きている。
おっ母は二人の息子を軍隊に行かせまいとするが、相次いで徴兵される。
残った口のきけない末娘は、街を救うために太鼓を叩き続け銃殺される。
ひとりになったおっ母は、なおも軍隊を追って幌車を曳いていく——

8月27日（水）～31日（日）

平日19時／土日14時

入場料 当日 4000円／前売 3800円

学生 3300円／小中高生 2000円 [全席自由席]

中野区内の小中学生は500円割引です

* 未就学児および障害のある方の介助者は無料。

* 車椅子のご利用、補助犬をお連れの方、駅から劇場へのサポート、台本の貸し出し等が必要な方は事前にお知らせください

* 舞台手話通訳、音声ガイド、字幕のサポートはありません

* 配慮が必要な方の先行入場あり

後援：ドイツ連邦共和国大使館／中野区